
ステークホルダーのみなさまへ

マーケティングとイノベーションを行動の軸に、
OKIグループ一丸となって成長モードへの転換を図ります。



OKIグループの2013年度の業績は、国内外の事業環境が改善に向かう中、全社を挙げて目標達成に取り組んだ結果、計画を上回る利益を達成することができました。

売上高は、情報通信システム事業をはじめとする主要セグメントの業績が堅調に推移したことに加え、円安の効果もあり、前期比273億円増の4,831億円となりました。営業利益は、プリンタ事業の構造改革による固定費削減や機種構成の改善、さらに円安も寄与し、同137億円増の272億円となりました。経常利益は、為替差益の発生などにより同164億円増の367億円、当期純利益は、プリンタ等の事業構造改善費用を計上したことなどから同138億円増の274億円となりました。

このように、2013年度の業績は、2010年10月に発表した「中期経営計画2013」の数値目標について、ほぼ達成することができました。この間に進めてきた経営基盤強化と成長に向けた取り組みが、着実な成果を上げたものと考えています。また、順調に期間利益を積み上げ、復配の環境を整えることができたことから、2013年度は1株当たり3円の期末配当を実施いたしました。

2014年度は、「中期経営計画2016」の初年度であり、これまでの「経営再建」から「成長」へモードチェンジし、ベース事業で安定収益を確保しつつ、持続的な成

長の実現に向けた取り組みを加速していきます。情報通信システム事業では、国内の堅調な需要取り込みや海外事業拡大を、プリンタ事業では、マーケティング戦略の見直しによる収益力向上を図ります。さらに、次世代社会インフラ分野への新規参入、保守・EMS事業での医療・新エネルギー分野の新規開拓なども行っていきます。

これまでの成果を基盤にしてさらに成長を持続するため、まずは2014年度の目標である、売上高で前期比419億円増の5,250億円、営業利益で同13億円増の285億円を達成し、中期経営計画2016の目標達成に向けて確実に成果を出す一年にしたいと考えています。

なお、2014年度の配当は、1株当たり中間2円、期末2円の年間配当4円を計画しております。株主のみなさまに対する安定的かつ継続的な利益還元につきましては、今後も最重要課題として取り組んでまいります。

ステークホルダーのみなさまには、これまで以上のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2014年7月

沖電気工業株式会社
代表取締役社長

川崎 秀一